

# 2024年度 授業評価アンケート報告書

京都大学大学院 教育学研究科  
2025年度 自己点検・評価委員会

## I. はじめに

この報告書は、2024 年度前期および後期に開講された教育学部・教育学研究科の授業科目に対する「授業評価アンケート」の内容および結果の概要を述べたものです。本学部・研究科における授業評価は、2005 年度から実施され、さまざまな検討と改訂を繰り返しながら、現在まで継続的に実施されています。その前は、前期・後期にそれぞれ 200 以上開講されている科目のなかから、講義・演習・ゼミナール等の授業タイプ別にいくつかの科目をピックアップして評価対象としていましたが、2014 年度からは、本学部・研究科が提供するすべての科目を評価の対象とし、今回で 11 年目となりました。

アンケートの内容は、開始当初のものと現在のものでは大きく異なりますが、本学部・研究科における授業評価アンケート実施に関する基本的な考え方は変わっていません。第一に、授業評価一般がそうであるように、本授業評価は、授業の改善を目的としたものです。しかし、本学部・研究科の研究の対象が「教育」であることから、本学部・研究科の学部生・大学院生による授業評価には、もう一つ別の期待が加わることになります。それは、学部生・大学院生が、評価とは何か、その対象となる教育や授業とは何かを自ら考え反省し、その過程で評価の力を涵養すること、そして、そのように培われた評価の力をもってなされた評価によって、教員が自らの教育について理論と実践のあり方を「再形成」していくという期待です。このことは、2005 年度の授業評価報告書に記されたところですが、現在もなお引き継がれています。

2024 年度の授業評価アンケートは、基本的に 2023 年度同様、前年度のものを踏襲しています。「シラバスの活用」と「学習時間」に重点を置くとともに、上記の趣旨をふまえて、「学習の達成度」に関する自己評価を求めている点は同じです。

## II. 授業評価アンケートの実施方法と内容

### § 2.1 実施授業科目および対象者

授業科目：教育学部・教育学研究科が提供するすべての科目（下表「科目数」）

対象者：上記授業に出席した学生・大学院生・科目等履修生（下表「履修者数」「回答者」

「回答率」 ※人数は延べ人数。（）内は昨年度の数）

	学部前期	学部後期	大学院前期	大学院後期
科目数	71 (104)	134 (129)	56 (96)	93 (92)
履修者数	2094 (2281)	2546 (2452)	613 (644)	623 (697)
回答者数	405 (490)	462 (450)	113 (75)	85 (114)
回答率 (%)	19.3 (21.5)	18.1 (18.4)	18.4 (11.6)	13.6 (16.4)

### § 2.2 実施日程

前期：2024年7月8日（月）～9月19日（木）

後期：2025年1月6日（月）～2月18日（火）

### § 2.3 実施手順

1. 授業アンケートシステム KULIQS による回答を求めた。
2. 原則として、最終授業日または試験時に教室等で実施した（諸事情により教室等で実施できなかった場合、授業連絡メールで回答を促した）。
3. 「個人が特定されないこと」、「成績評価に影響しないこと」を伝えた後、以下の教示文を参考に実施した。

《教示文》

アンケートシステムから授業評価アンケートの回答をお願いいたします。

科目名は「●●●●」（※一つの授業で複数の科目名がある場合は、すべて記載してください）です。

## 《回答方法》

全学生共通ポータルへログインし、アンケートシステム ⇒ 授業アンケートと進んでいただき、当該科目について、ご回答ください。

全学生共通ポータル <https://student.iimc.kyoto-u.ac.jp/>

本アンケートは、授業について受講者の皆さんからの回答を得て、授業・教育環境の改善に役立てようとするためのものです。

本アンケートは無記名方式であり、“誰がどのように答えた”などは特定されません。また、回答内容があなたの成績などの評価に影響することは一切ありませんので、率直なご意見をお願いいたします。

## § 2.4 設問の概要

授業評価アンケートには以下の5つの区分があった： 1. シラバスの活用状況 2. 学習時間 3. 学習の達成度 4. 授業の満足度 5. 今後に向けて

5つ目の「今後に向けて」は、1) 勉強／参考になった点や自分自身の今後の課題、2) 改善点、授業環境や教室設備などに関する要望について自由記述を求めた。

これについては担当教員に個別にフィードバックを行っているため、本項および「3. 授業アンケートの結果」には提示しない。以下では、5つ目を除いた4つの区分の内容について順に説明する。

### 1. シラバスの活用状況について

- 1) シラバスを活用したかどうか、活用した場合には、どのような用途だったのか選択肢によって回答。
- 2) シラバスの情報は十分なものだったか、十分でなかった場合には、どのような理由だったのか選択肢によって回答。

### 2. 学習時間について

- 1) 当該科目の出席割合を選択肢によって回答。
- 2) 当該科目に係る授業外学習（予習・復習、宿題・課題等）の時間を 1 週間当たりの平均で回答（30 分単位で記載）。

### 3. 学習の達成度について

- 1) 当該科目の到達目標に照らして達成できたかどうか、自己評価を選択肢によって回答。



- ④ 「到達目標」の情報
- ⑤ 「授業計画と内容」の情報
- ⑥ 「履修要件」の情報
- ⑦ 「成績評価の方法・観点及び達成度」の情報
- ⑧ 「教科書」及び「参考書等」の情報
- ⑨ 「その他」の情報

※記載してほしかった情報等があれば自由に記述してください。

( )

## 2. 学習時間について

(1) 当該科目の授業出席回数を記載してください。

回程度

(注) 教育学部の授業回数は、半期で授業14回・試験1回・フィードバック1回です。  
集中講義はコマ数を回数として、1～15回で回答してください。

(2) 授業外学習時間について

当該科目に係る予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間(1週間当たりの平均値)を記載してください。「授業に出席した時間」と「授業外学習時間」の区別がしづらい場合には、1週間当たり1.5時間分を「授業に出席した時間」、それ以外を「授業外学習時間」とみなしてください。

約. 時間 (注) 30分単位で記載願います。

## 3. 学習の達成度について

(1) この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

(教育学部シラバス) <https://www.k.kyotou.ac.jp/student/u/ed/syllabus/top>

(教育学研究科シラバス) <https://www.k.kyotou.ac.jp/student/g/ed/syllabus/top>

- ①十分達成 (目安: 授業の達成目標の概ね9割以上達成)
- ②ほぼ達成 (目安: 授業の達成目標の概ね8割以上～9割未満達成)
- ③やや達成できなかった (目安: 授業の達成目標の概ね6割以上～8割未満達成)
- ④達成できなかった. (目安: 授業の達成目標の概ね6割未満達成)
- ⑤どちらともいえない(判断できない)



## 5. 今後に向けて

- (1) この授業を振り返って、とくに勉強になった・参考になったという点や自分自身の今後の課題などがあれば書いてください。
- (2) 授業の内容・方法などについて改善してほしい点、その他、授業環境や教室設備などについて要望があれば書いてください。

## Ⅲ. 授業評価アンケートの結果

### § 3.1 2024年度の結果

以下では、2024年度の授業評アンケートの結果を設問ごとに報告する。自由記述を求めた設問（Q.1(2)の一部、Q.3(3)、Q.5(1)、Q.5(2)）については、担当教員にのみフィードバックを行い、ここでは記載していない。集計は、比較しやすいよう、開講期別に、学部の授業と大学院の授業に分けて行った。

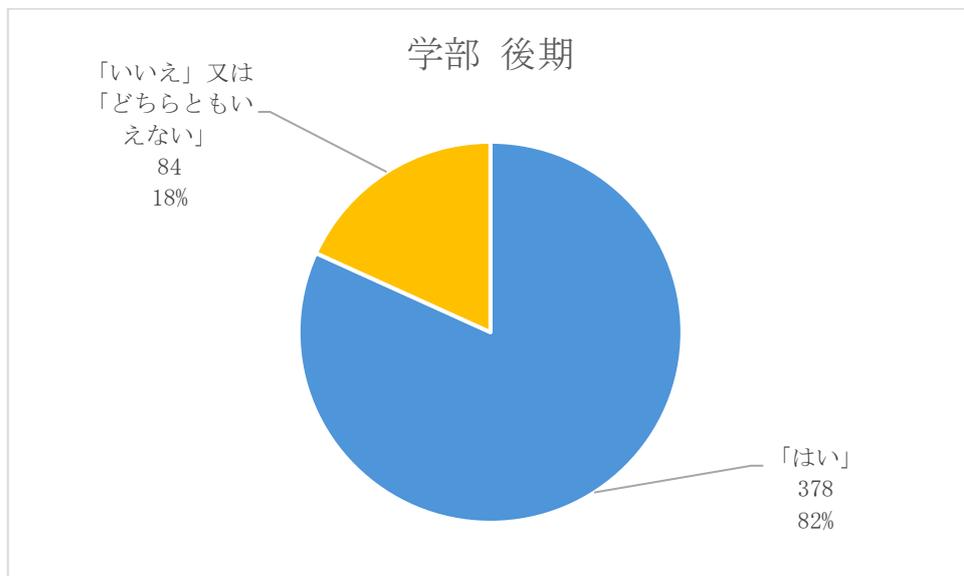
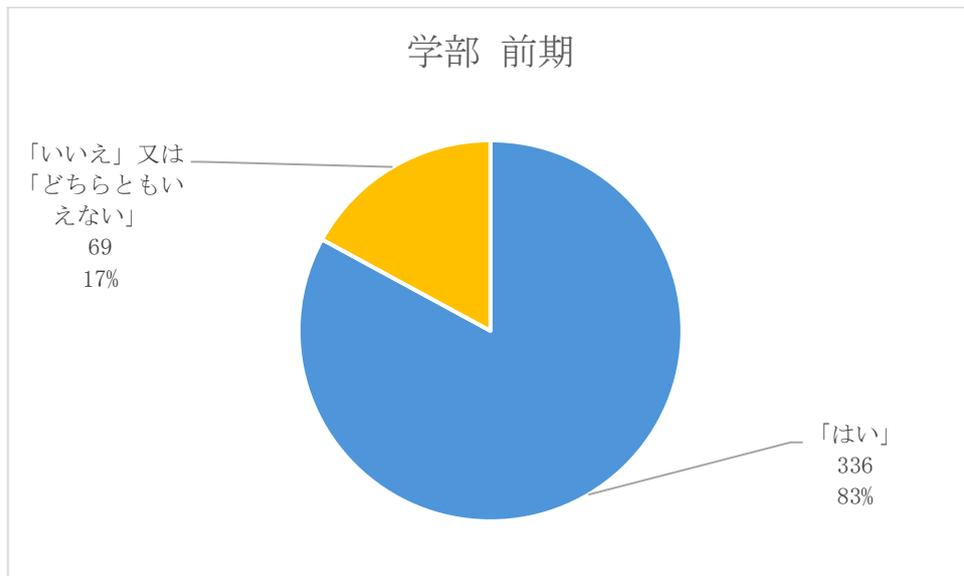
なお、2024年度の回答率（履修者総数÷回答者総数）は約18%であった。アンケートに回答していない履修者が、平均すると5人中4人を占める。下記に記載した結果については、そのことを考慮した上で解釈を行う必要がある。

## 1. シラバスの活用状況について

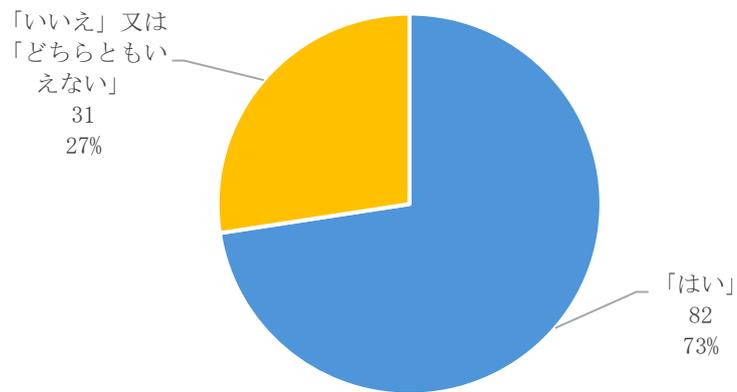
(1) シラバスを活用（使用）しましたか。

①はい

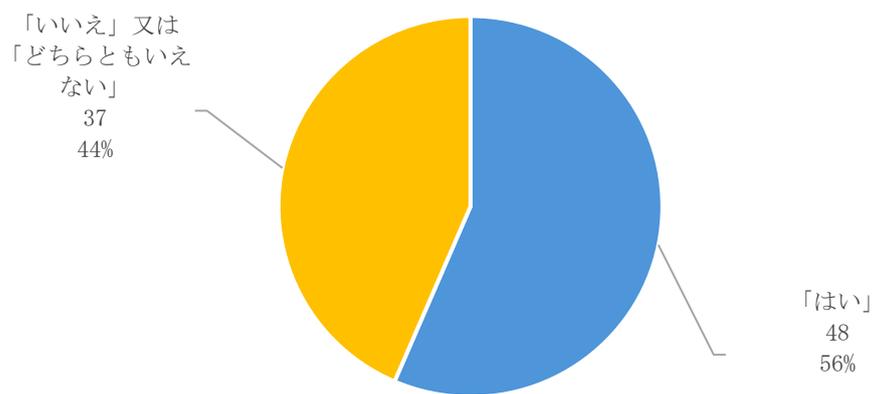
②「いいえ」又は「どちらともいえない」



### 大学院 前期



### 大学院 後期



(1) シラバスを活用（使用）しましたか。

①はい(活用（使用）の方法を以下より選択してください。複数選択可)

科目選択・履修登録に活用

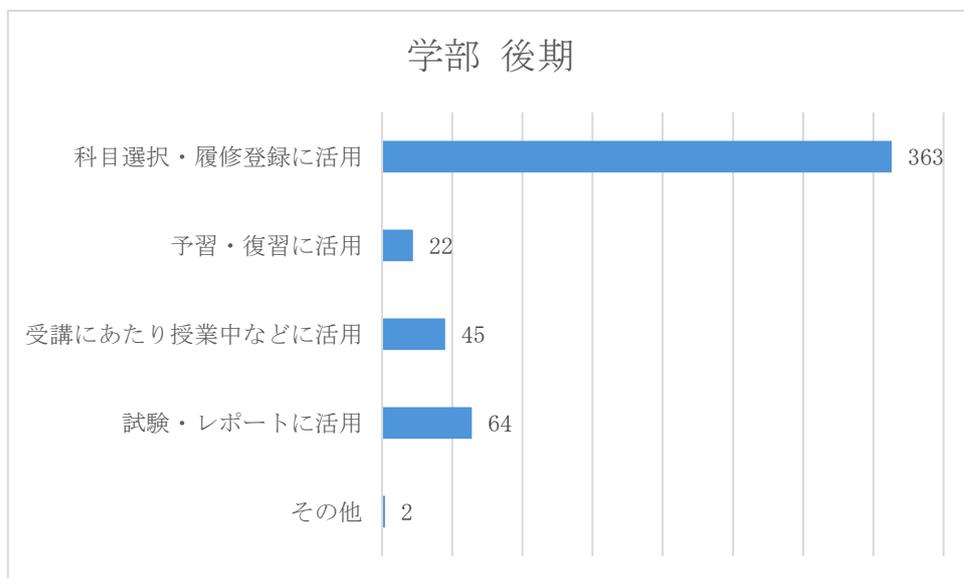
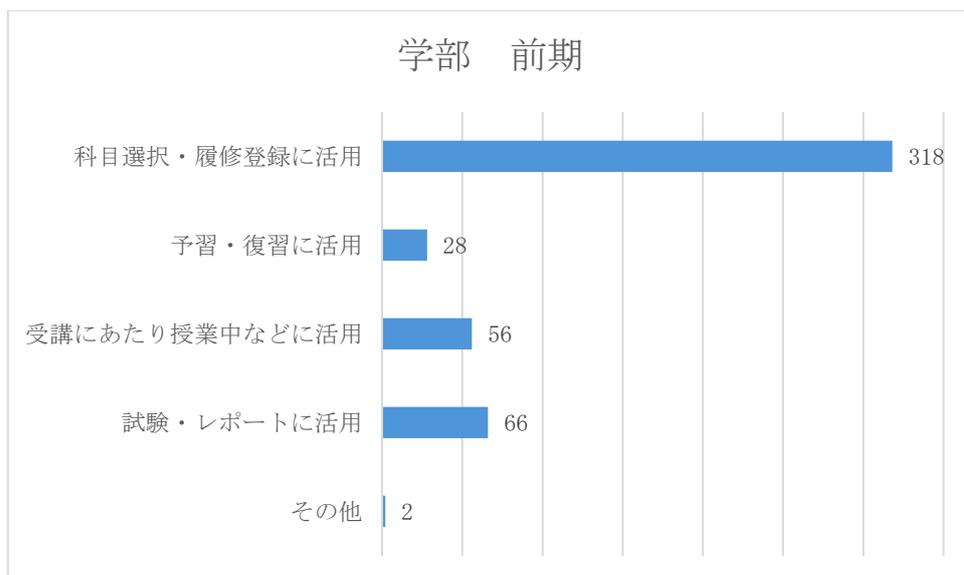
予習・復習に活用

受講にあたり授業中などに活用

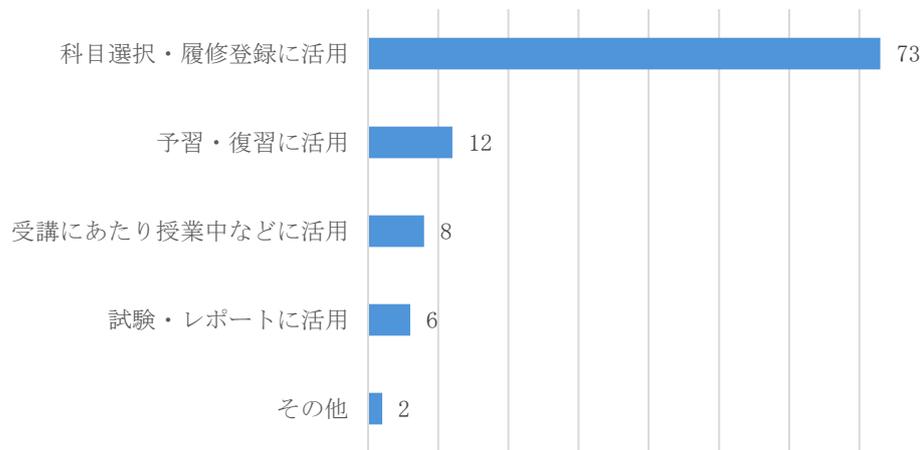
試験・レポートに活用

その他（理由： \_\_\_\_\_ ）に活用

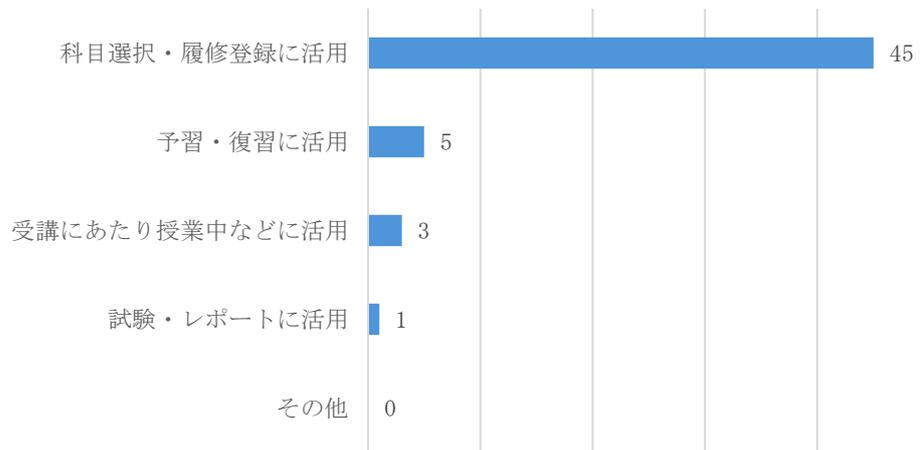
※



### 大学院 前期



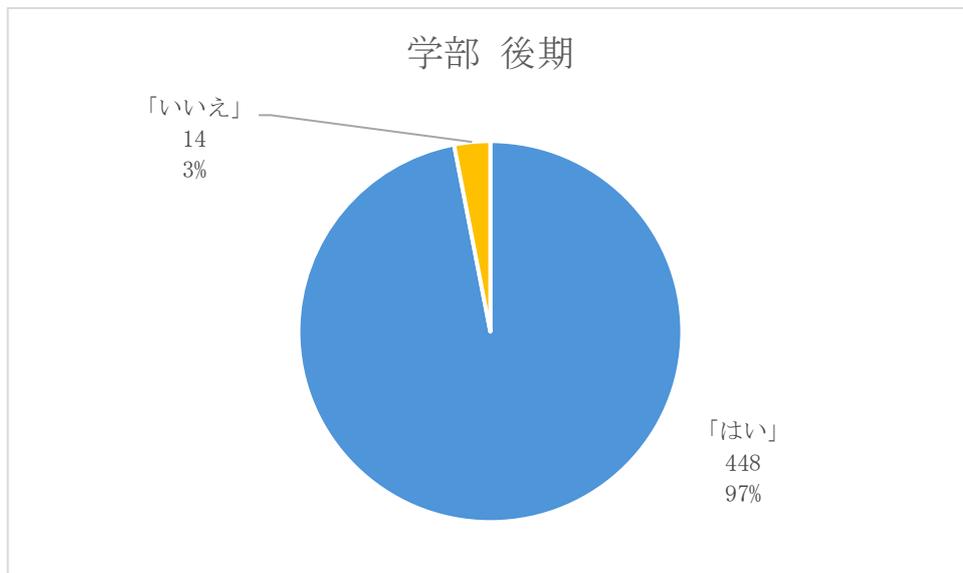
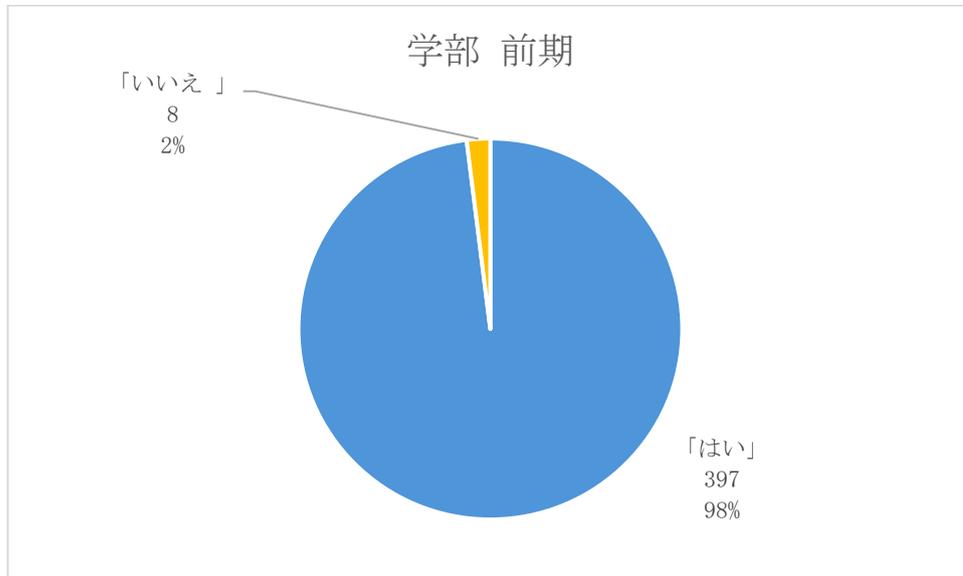
### 大学院 後期



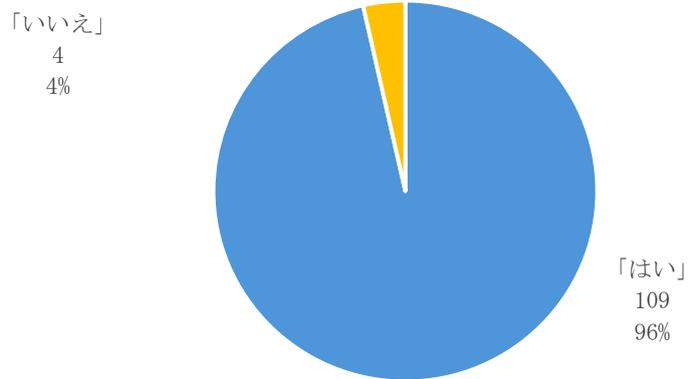
(2) シラバスの情報は十分なものでしたか。(シラバス活用の有無等に係わらず回答してください。)

①はい

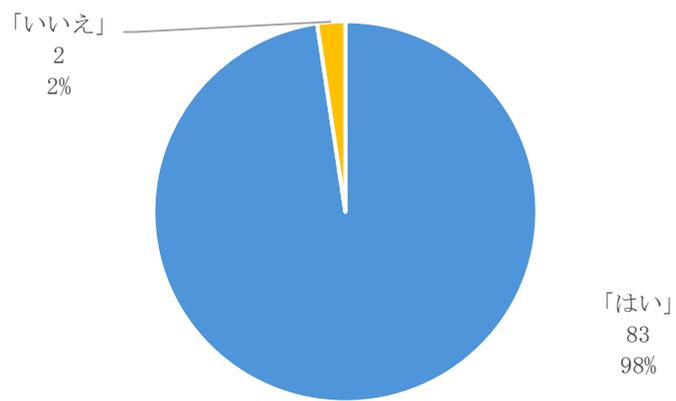
②いいえ



### 大学院 前期



### 大学院 後期

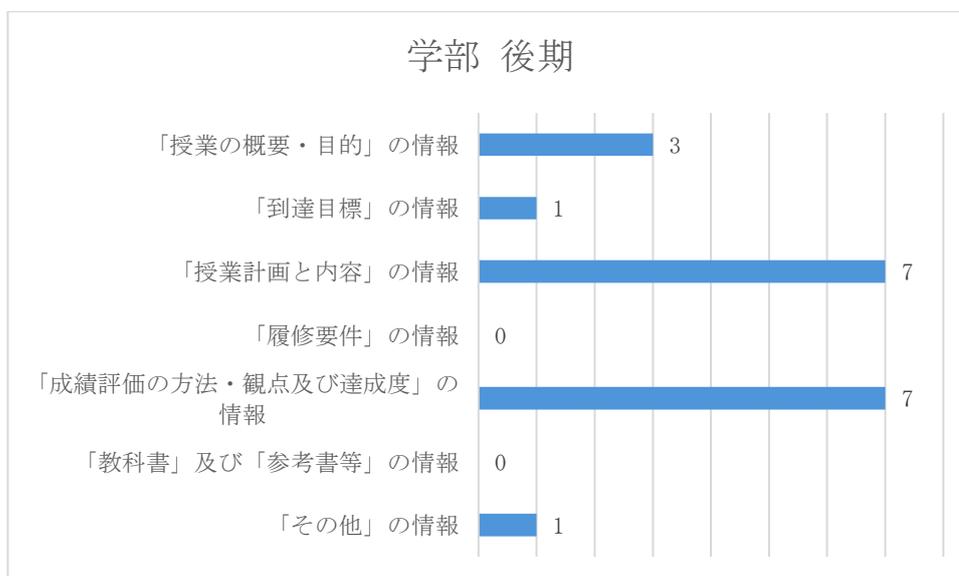
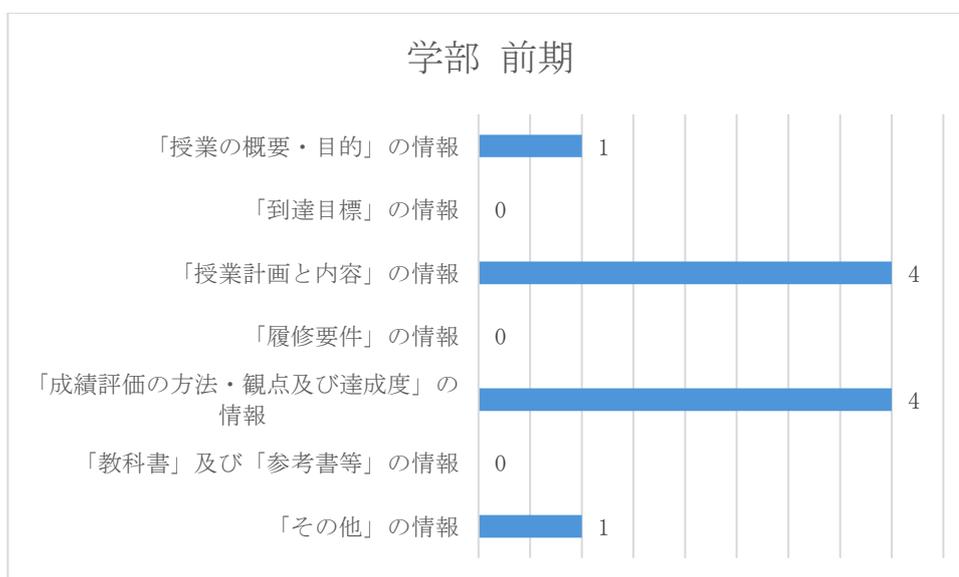


(2) シラバスの情報は十分なものでしたか。(シラバス活用の有無等に係わらず回答してください。)

②いいえ(何が不十分と思ったかを以下より選択してください。複数選択可)

- ㉞「授業の概要・目的」の情報
- ㉟「到達目標」の情報
- ㊱「授業計画と内容」の情報
- ㊲「履修要件」の情報
- ㊳「成績評価の方法・観点及び達成度」の情報
- ㊴「教科書」及び「参考書等」の情報
- ㊵「その他」の情報

※記載してほしかった情報等があれば自由に記述してください。



## 大学院 前期

「授業の概要・目的」の情報	1
「到達目標」の情報	1
「授業計画と内容」の情報	1
「履修要件」の情報	0
「成績評価の方法・観点及び達成度」の情報	1
「教科書」及び「参考書等」の情報	0
「その他」の情報	0

## 大学院 後期

「授業の概要・目的」の情報	0
「到達目標」の情報	0
「授業計画と内容」の情報	2
「履修要件」の情報	0
「成績評価の方法・観点及び達成度」の情報	0
「教科書」及び「参考書等」の情報	0
「その他」の情報	0

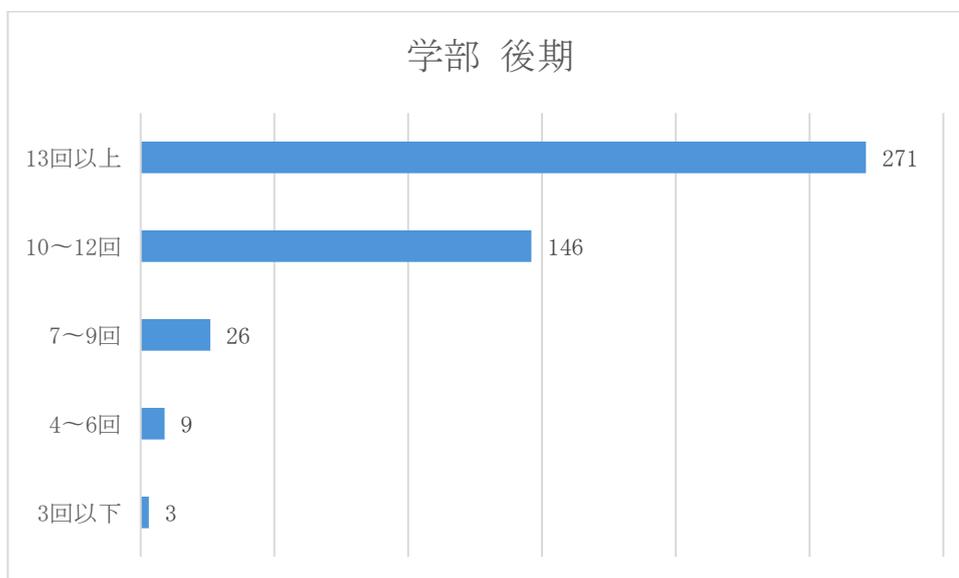
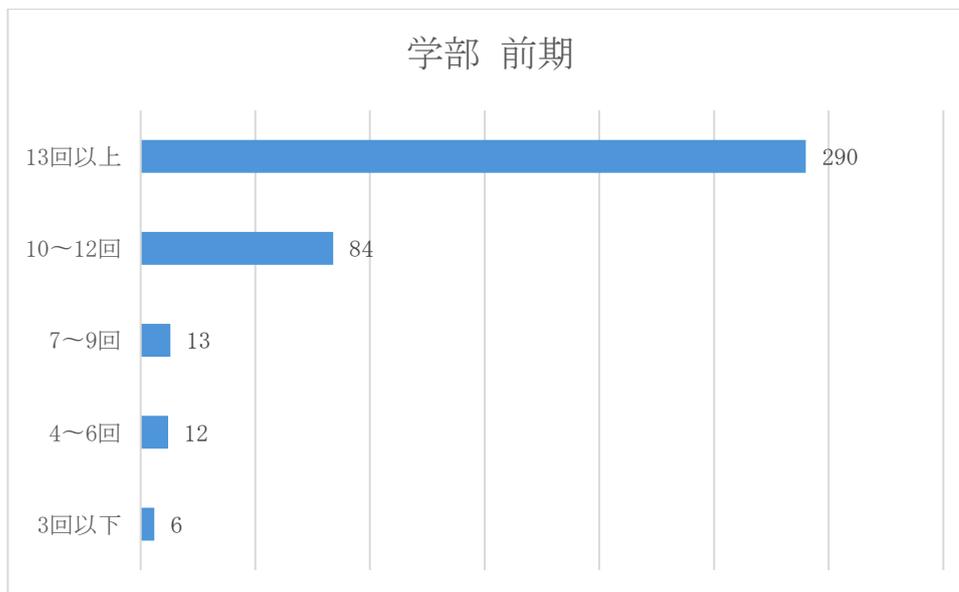
## 2. 学習時間について

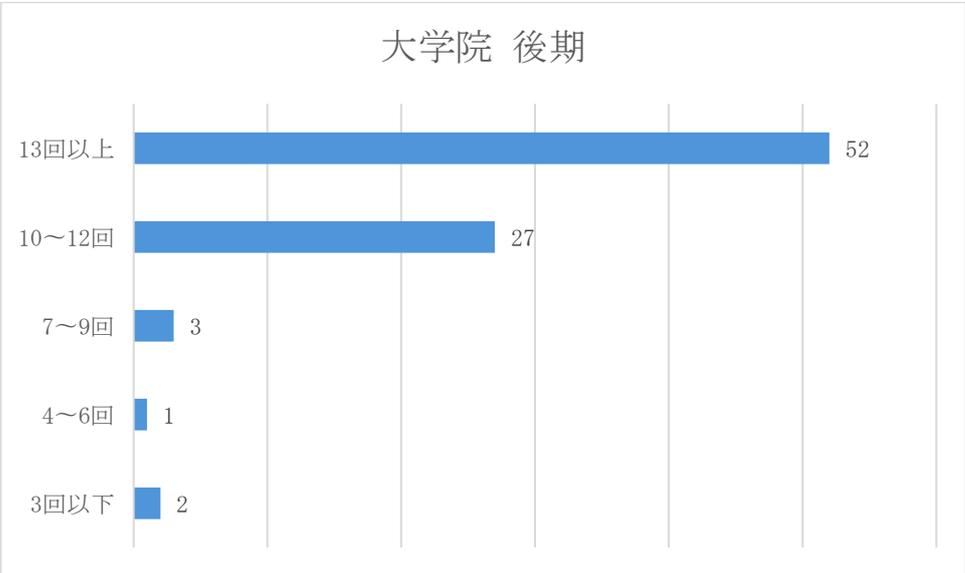
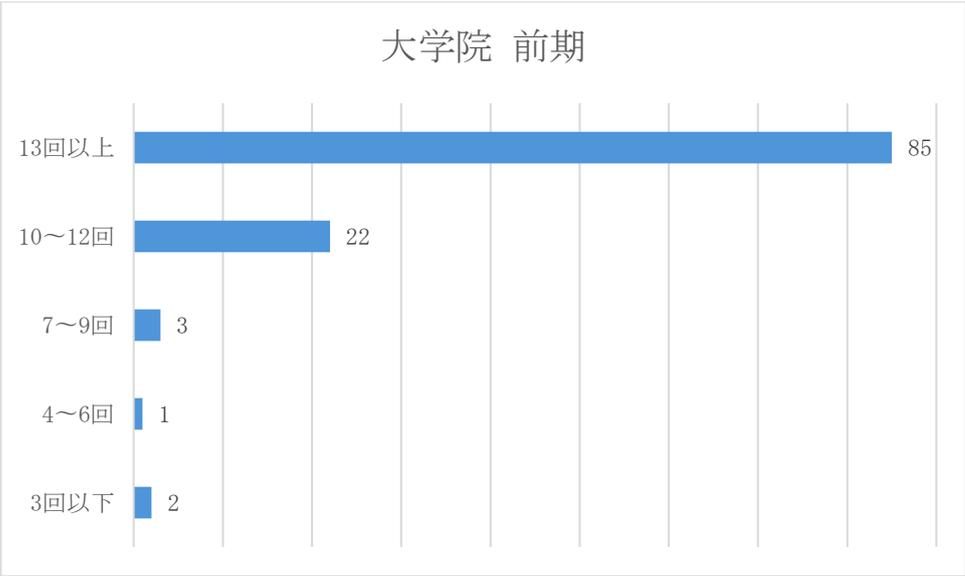
(1) 当該科目の授業出席回数を記載してください。

回程度

(注) 教育学部の授業回数は、半期で授業14回・試験1回・フィードバック1回です。

集中講義はコマ数を回数として、1～15回で回答してください。

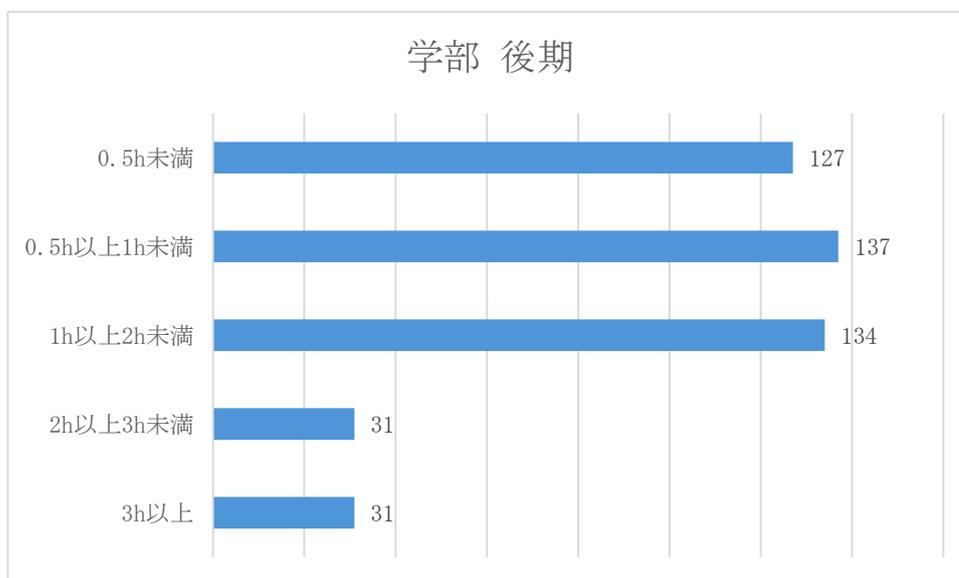
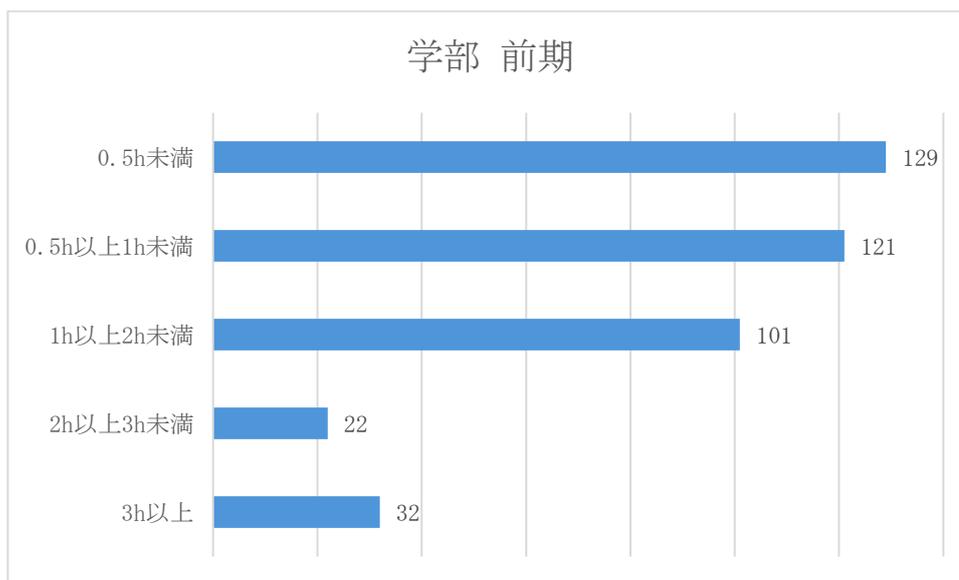




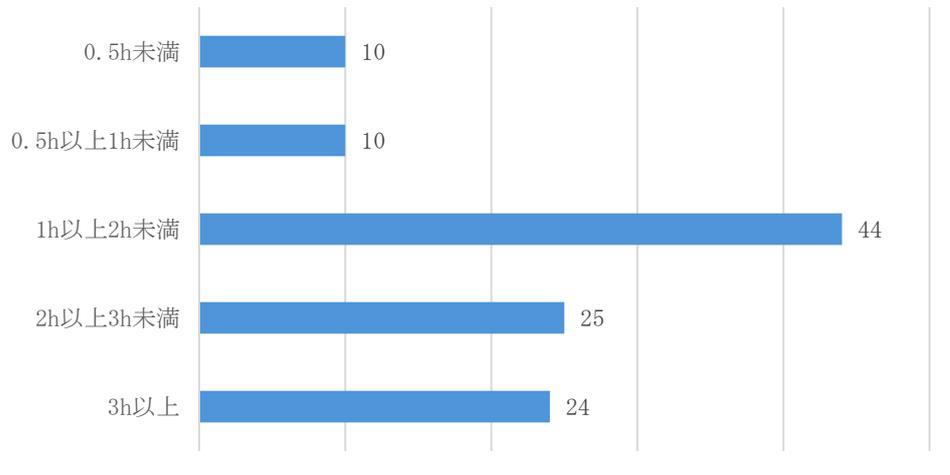
(2) 授業外学習時間について

当該科目に係る予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間（1週間当たりの平均値）を記載してください。「授業に出席した時間」と「授業外学習時間」の区別がしづらい場合には、1週間当たり1.5時間分を「授業に出席した時間」、それ以外を「授業外学習時間」とみなしてください。

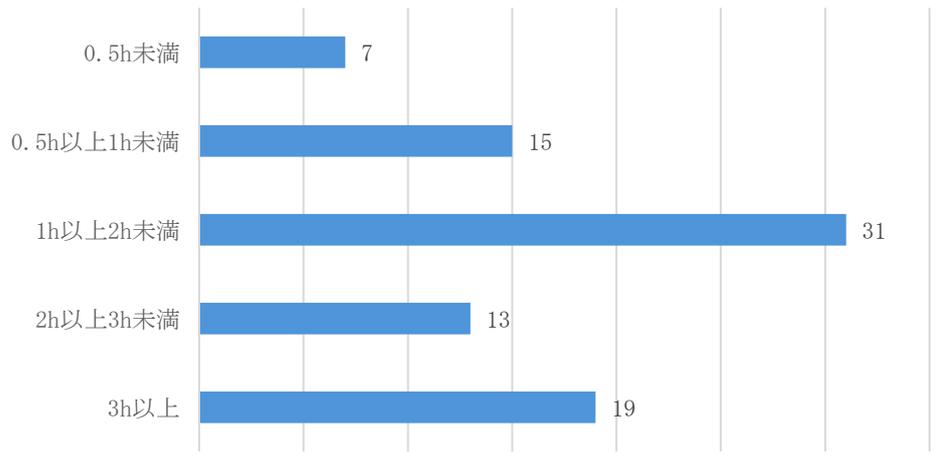
約□. □時間 （注）30分単位で記載願います。



### 大学院 前期



### 大学院 後期



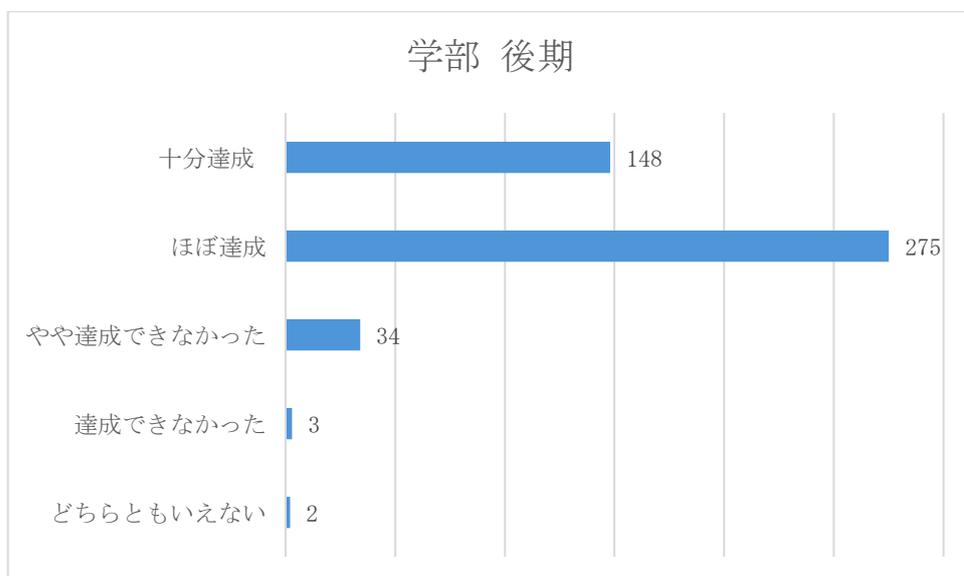
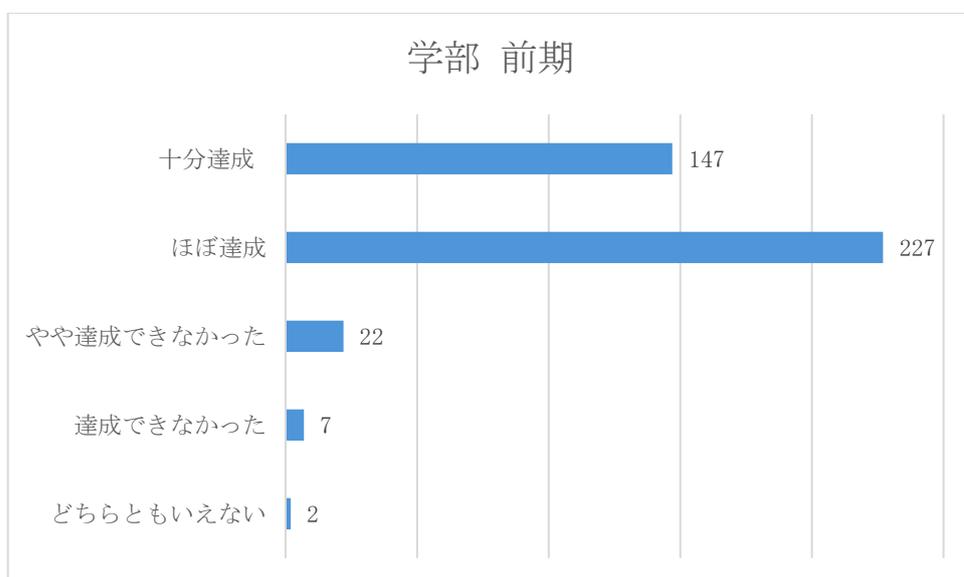
### 3. 学習の達成度について

(1) この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。

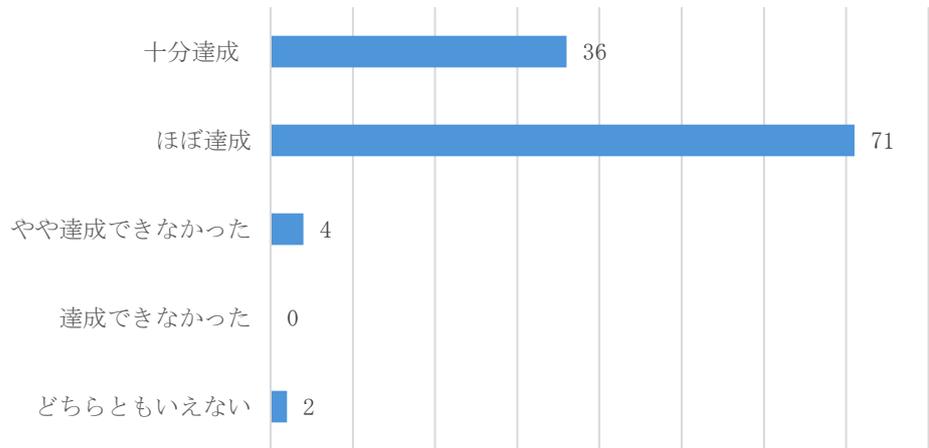
(教育学部シラバス) <https://www.k.kyotou.ac.jp/student/u/ed/syllabus/top>

(教育学研究科シラバス) <https://www.k.kyotou.ac.jp/student/g/ed/syllabus/top>

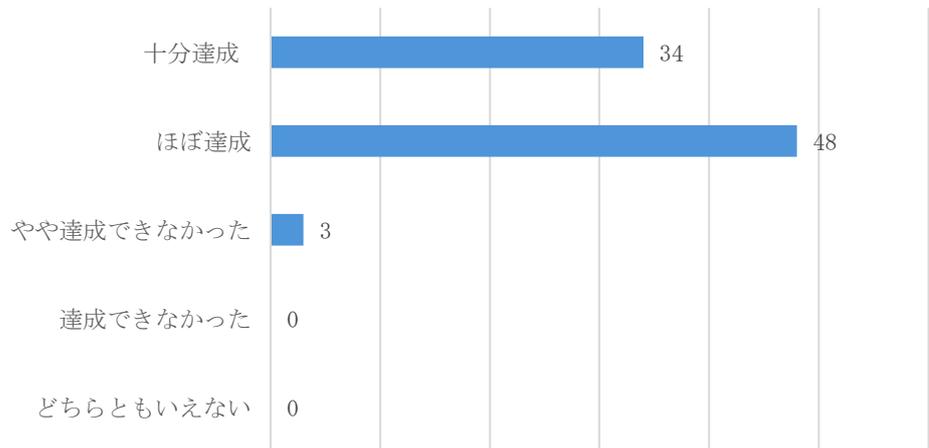
- ①十分達成 (目安: 授業の達成目標の概ね9割以上達成)
- ②ほぼ達成 (目安: 授業の達成目標の概ね8割以上～9割未満達成)
- ③やや達成できなかった (目安: 授業の達成目標の概ね6割以上～8割未満達成)
- ④達成できなかった (目安: 授業の達成目標の概ね6割未満達成)
- ⑤どちらともいえない(判断できない)



### 大学院 前期

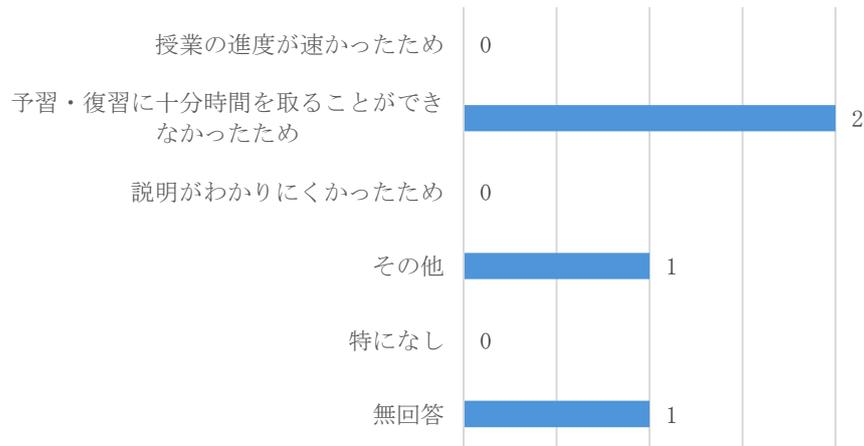


### 大学院 後期

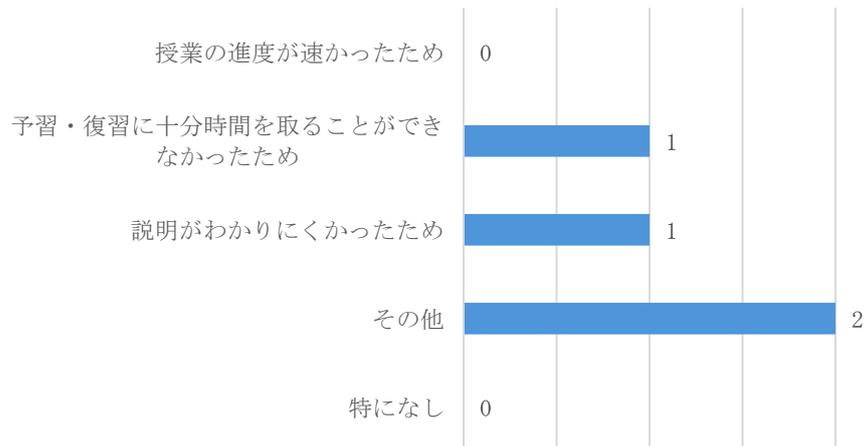




### 大学院 前期

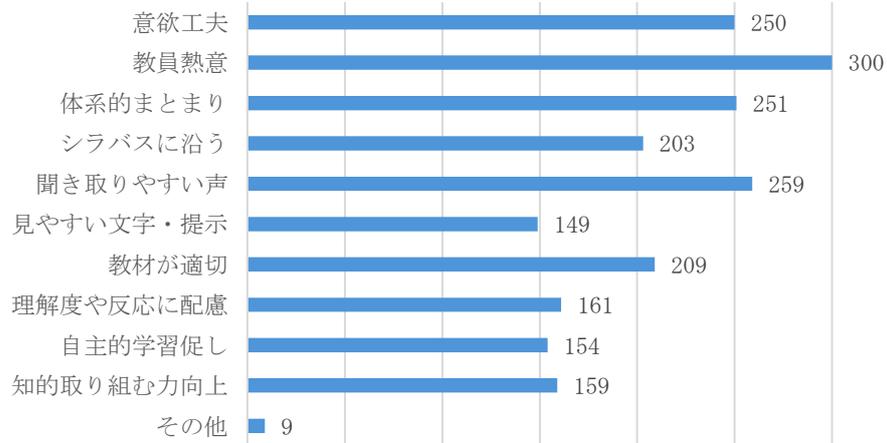


### 大学院 後期

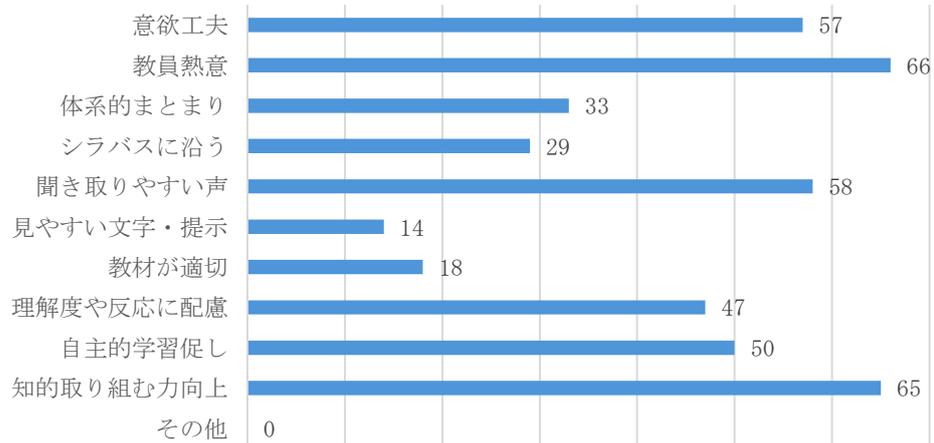




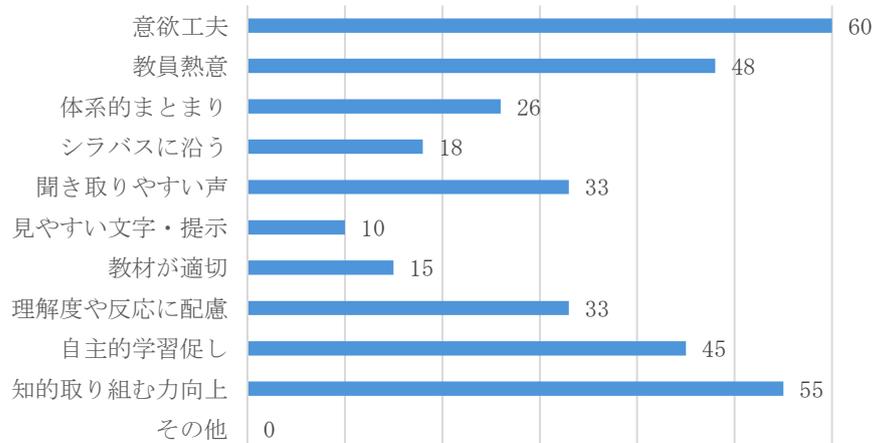
### 学部 後期



### 大学院 前期

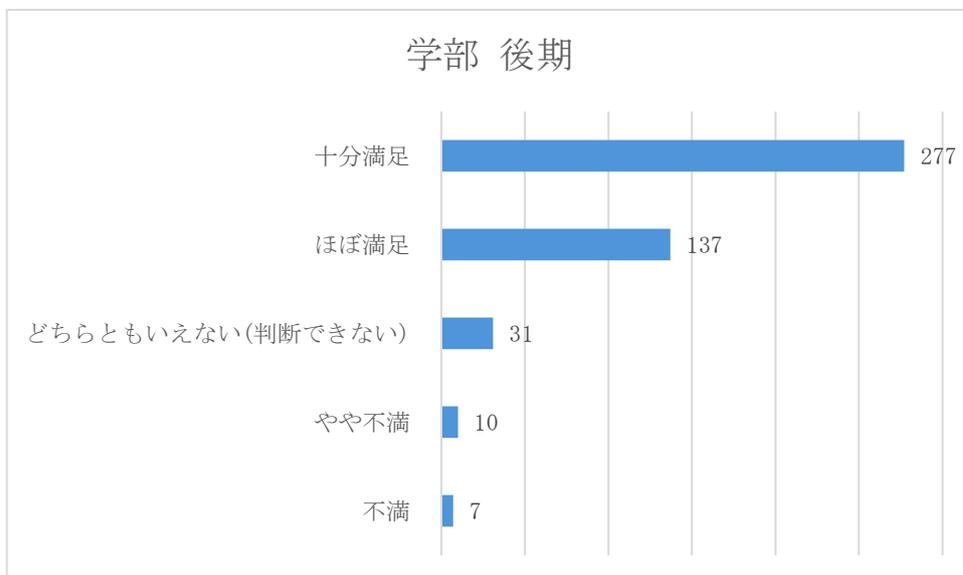
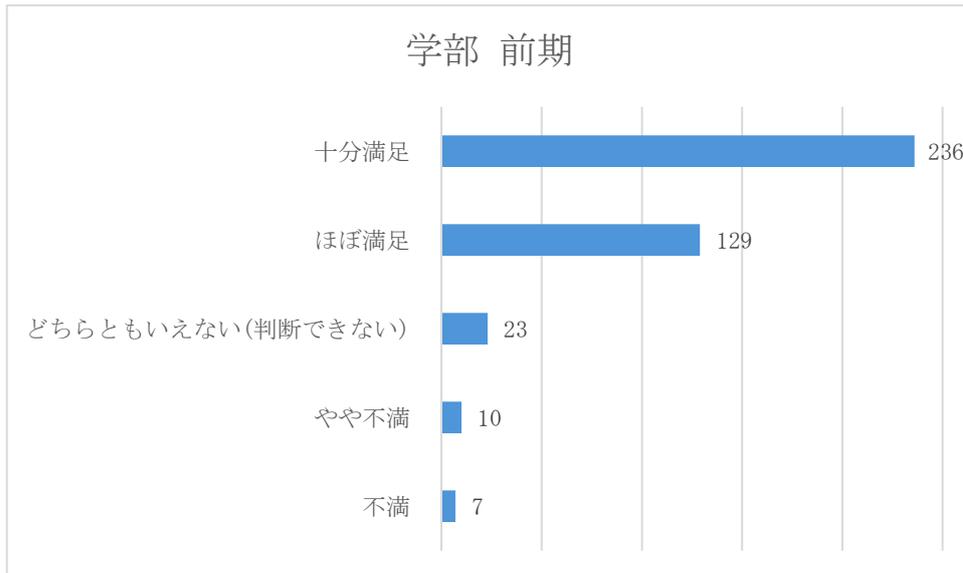


### 大学院 後期

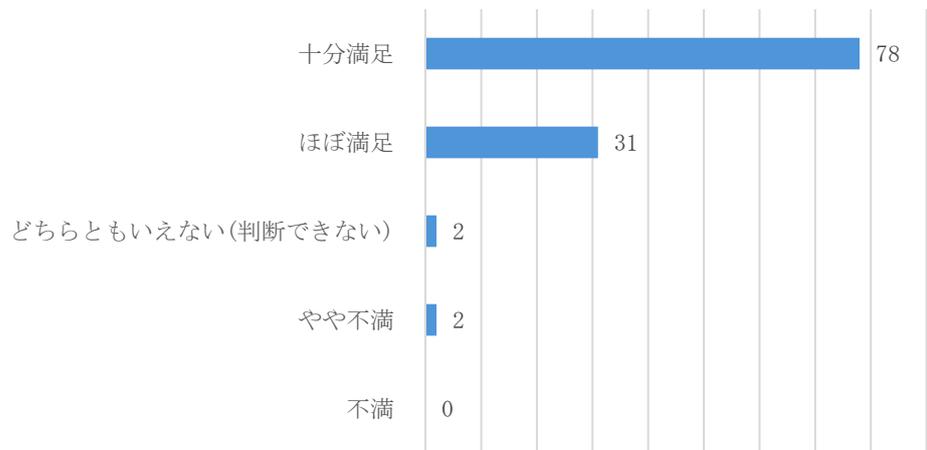


(2) この授業は全体として満足できる内容でしたか。

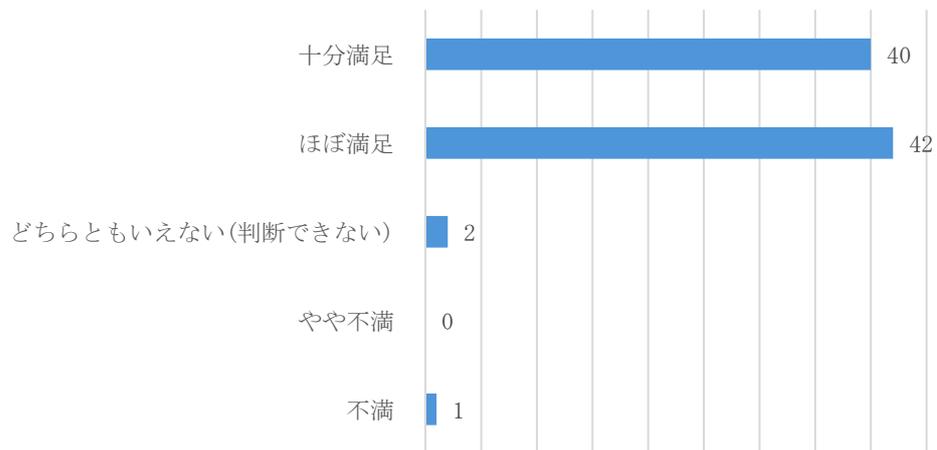
- ①十分満足
- ②ほぼ満足
- ③どちらともいえない(判断できない)
- ④やや不満
- ⑤不満



### 大学院 前期



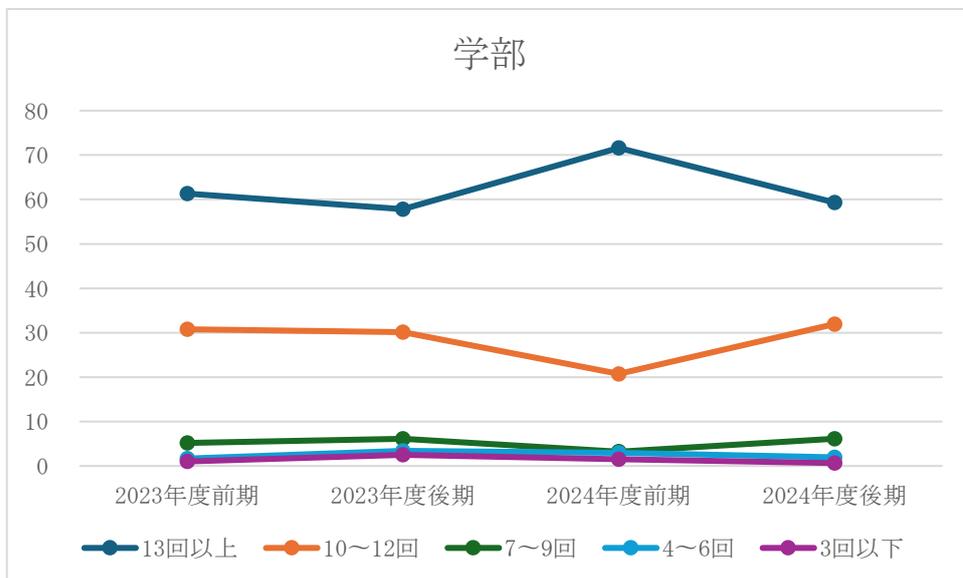
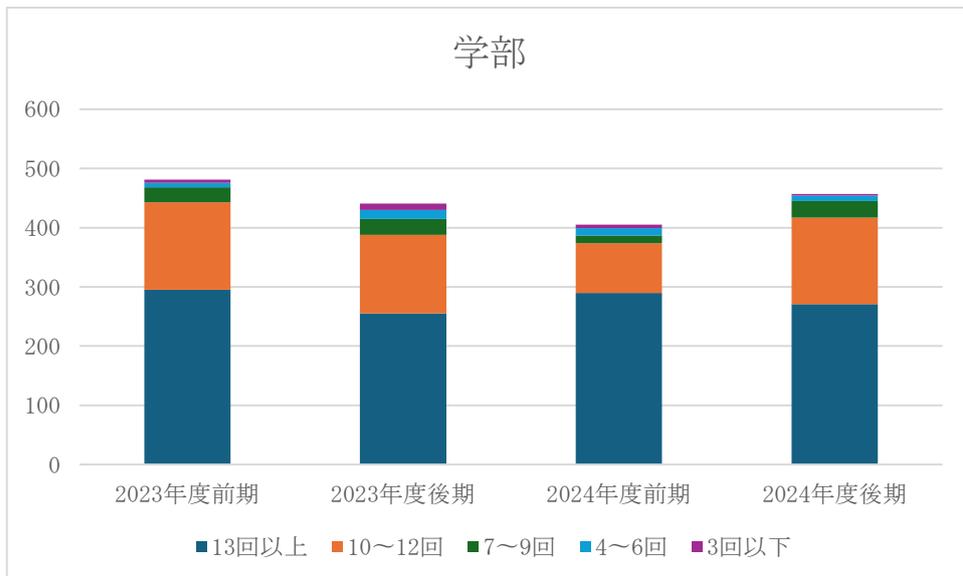
### 大学院 後期

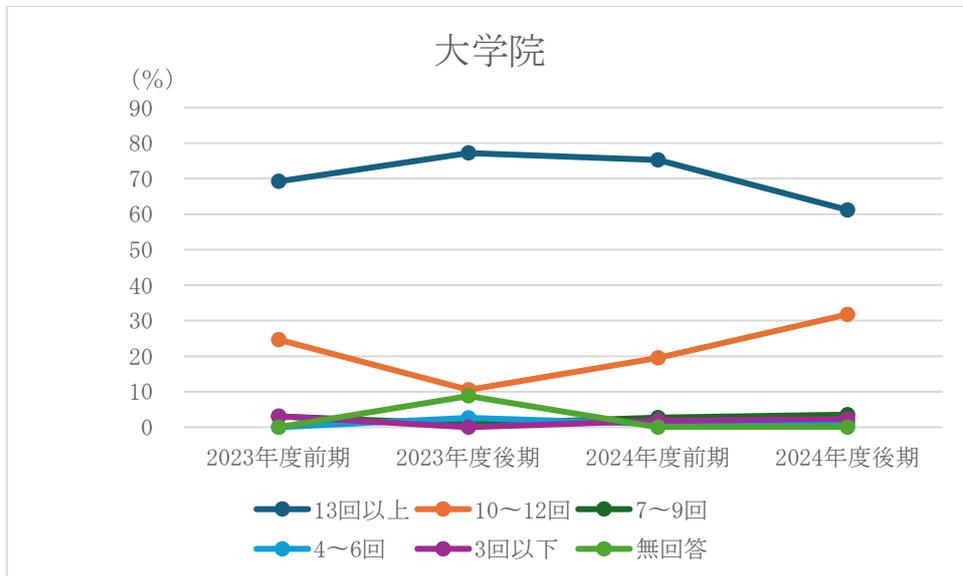
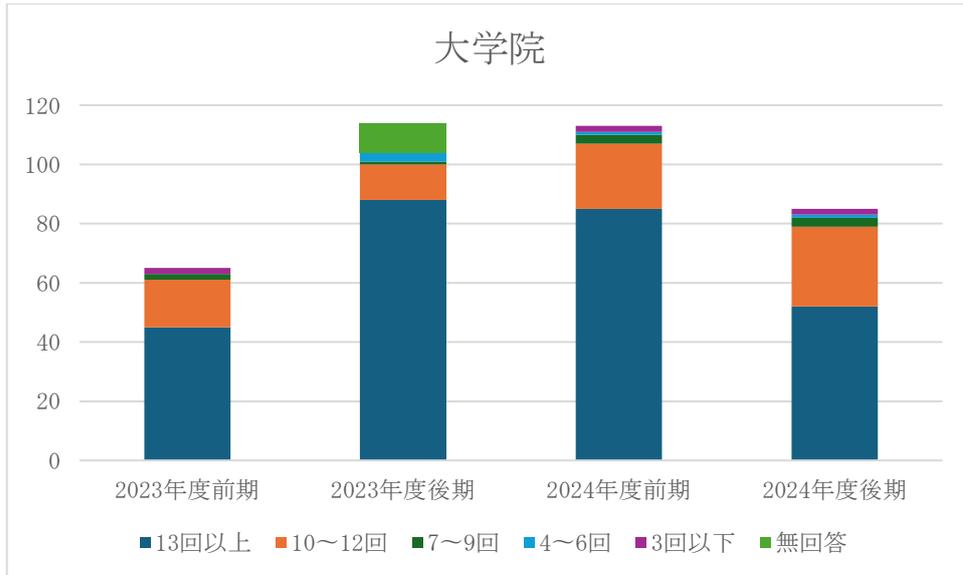


### § 3.2 2023年度と2024年度の比較

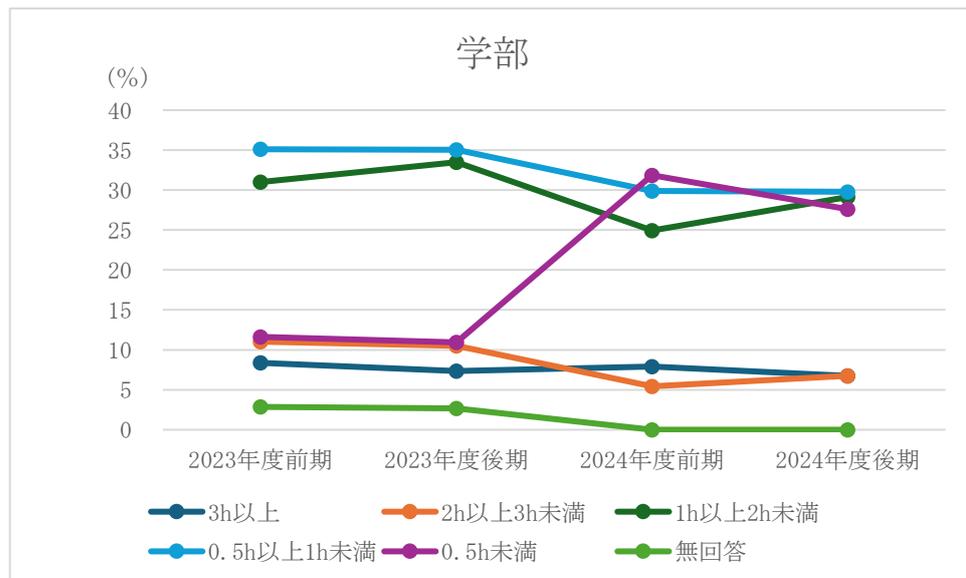
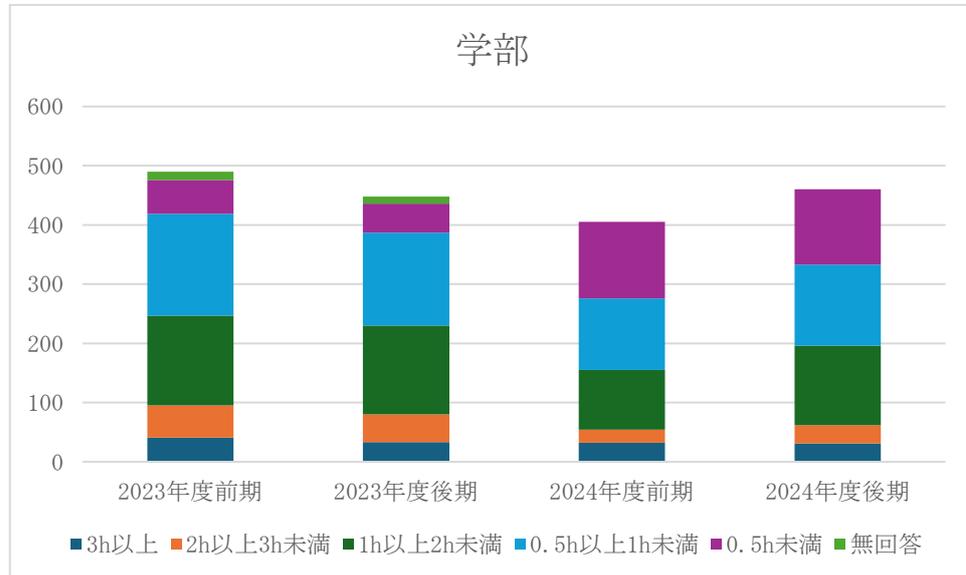
以下に重要かつ年度間の比較に意義があると思われる4項目（Q.2(1)、Q.2(2)、Q.3(1)、Q.3(2)）について2023年度と2024年度の結果を示す。上側が回答数、下側は百分率。

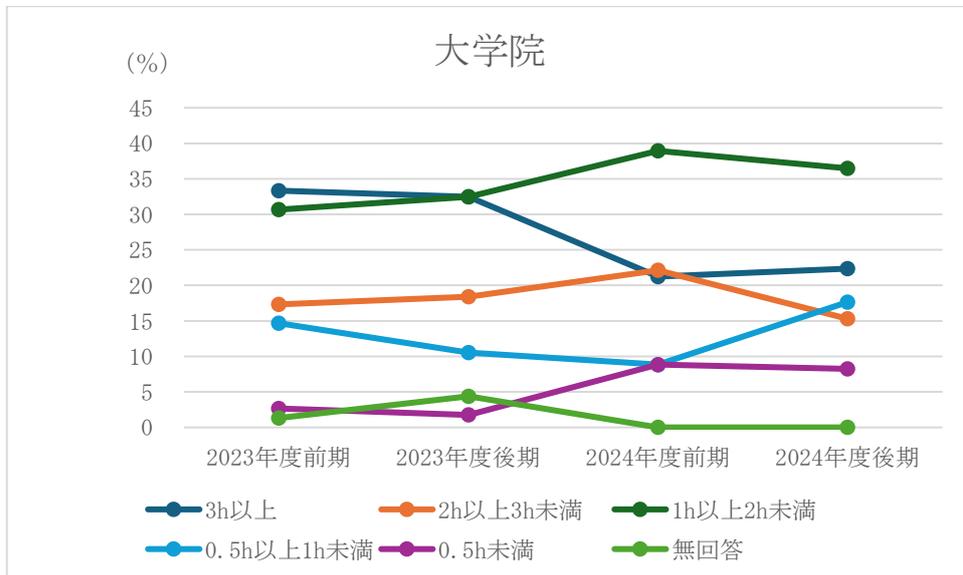
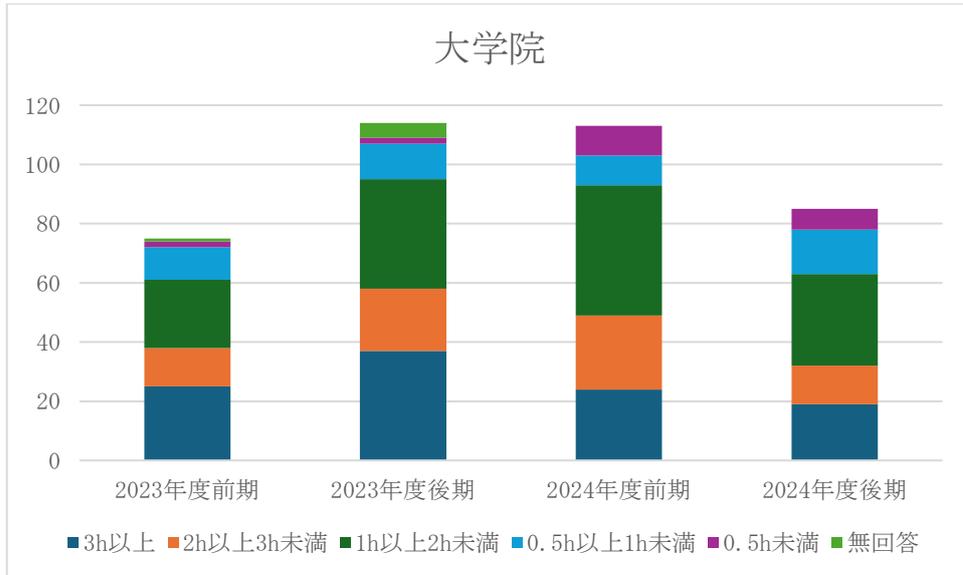
出席割合「Q.2(1) 当該科目の授業出席回数を記載してください。」



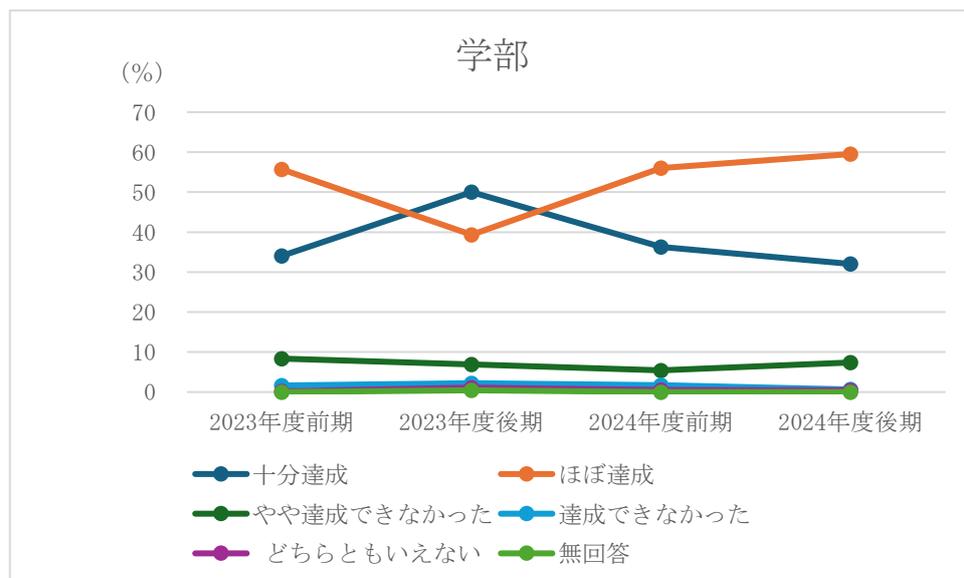
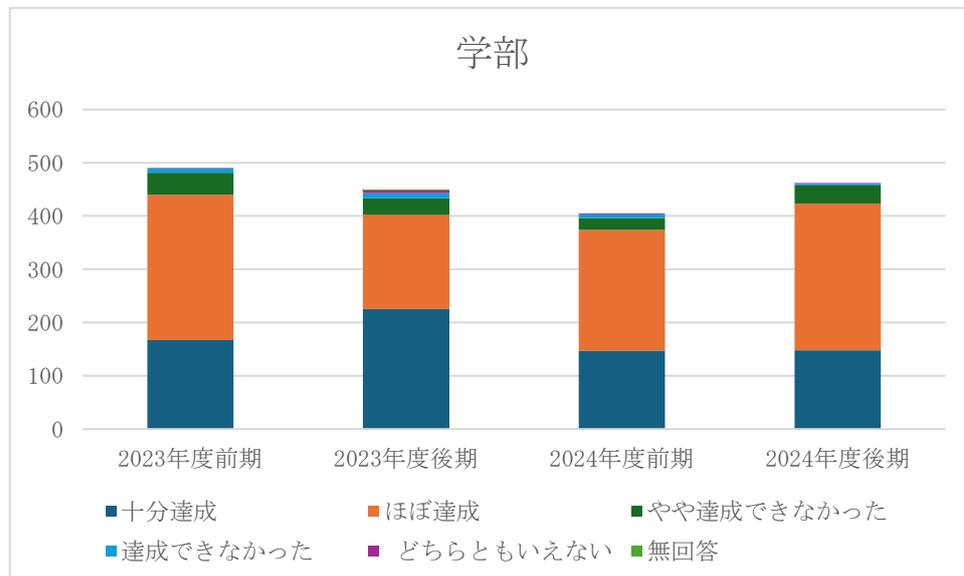


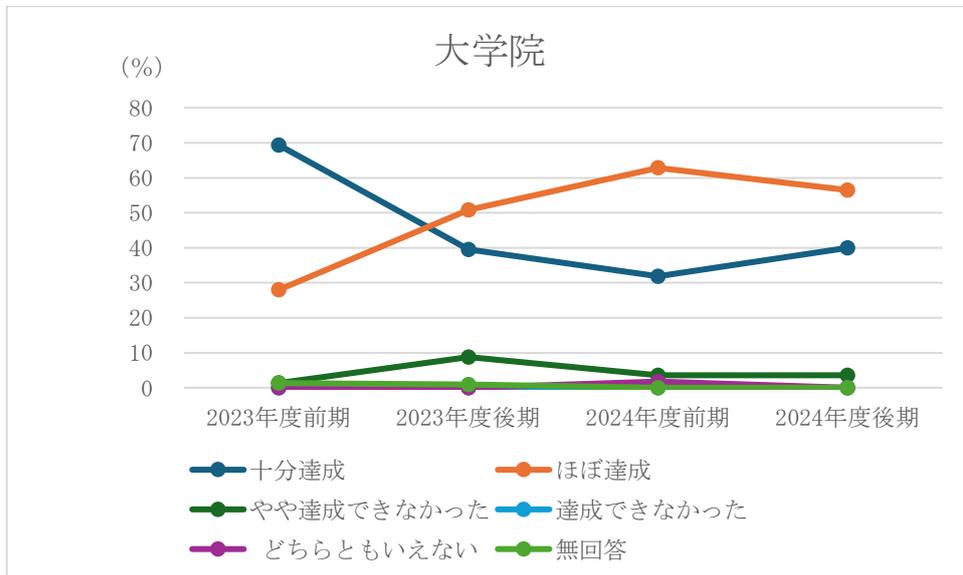
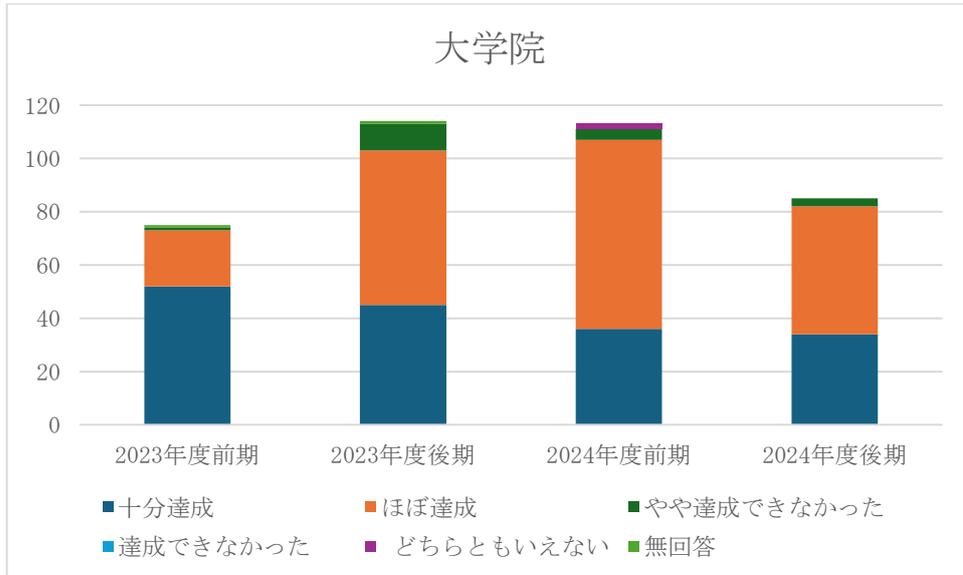
授業外学習時間「Q.2(2) 当該科目に係る予習・復習、宿題・課題等を行った合計の時間（1週間当たりの平均値）を記載してください。」



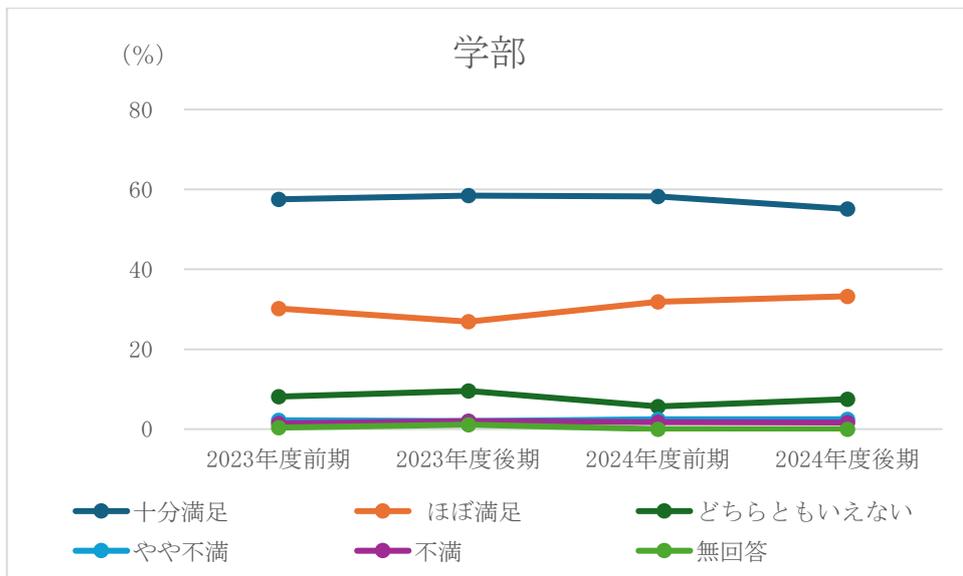
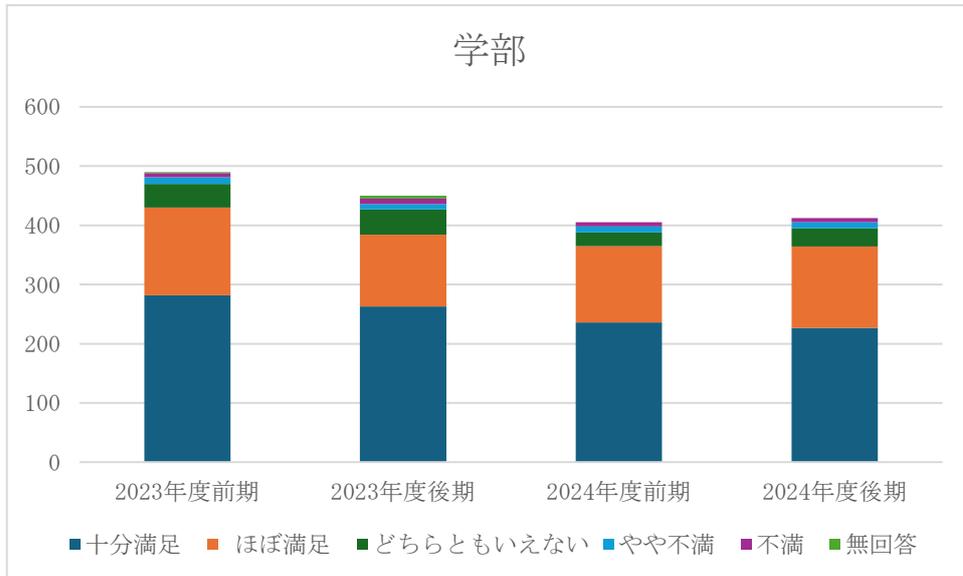


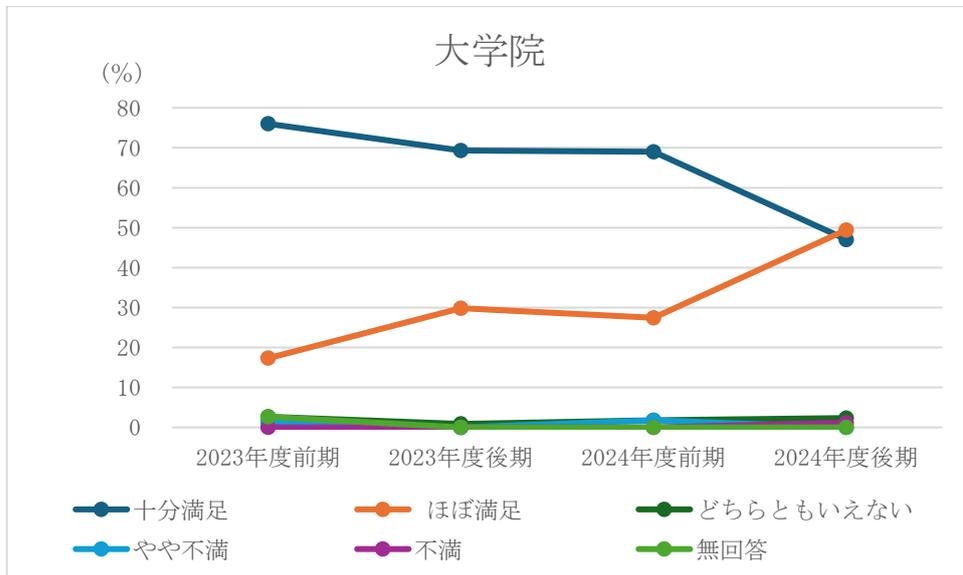
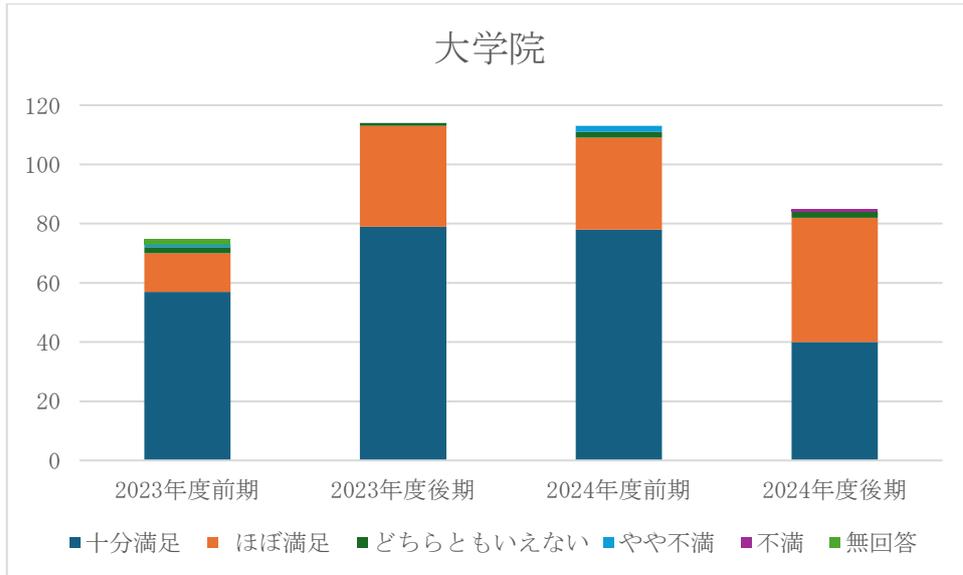
達成度「Q.3(1) この授業の到達目標に照らして達成できたかどうか、ご自身の判断を以下より1つ選択してください。」





満足度「Q.4(2) この授業は全体として満足できる内容でしたか。」





#### IV. おわりに

本報告は、教育学部・教育学研究科において 2024 年度に開講された全科目を対象に実施した授業評価アンケートの結果です（一部、2023 年度の結果を比較のために提示しました）。授業アンケートシステム KULIQS（クリックス）を用いて実施された 11 回目の調査であり、調査項目の提示方法や回答方法などは、前年度までの形を踏襲しています。事務局教職教務掛の皆様には、調査の作成から実施、集計に至るまで、さまざまな局面でご支援をいただきました。あらためて御礼を申し上げます。

アンケート結果の基本的な傾向は従来と概ね同様でしたが、以前と比較して次のような変化がみられました。1) 学部生は前年度と同じく、前期・後期を通じ、平均 80%強がシラバスを利用しています。大学院生の利用については、前期に 70%強が利用するものの、後期には 50%強まで大きく減少しました。ただしこれは昨年度と同様の特徴です。シラバスを利用する学生は、ほぼ 100%近くが、情報が十分だったとしています。2) 出席が 12 回以上 (80%以上) の割合は、学部生は 2021 年度 90%、2022 年度 84%、2023 年度 88%、2024 年度 91%と、「もちなおし」から上昇の傾向をみせています。大学院生は、2022 年度 96%で、2023 年度 85%、2024 年度 94%と、V字回復をみえています。3) 授業の目標を「十分達成」「ほぼ達成」と回答した学部生の割合は 92%で、2021 年度以来の 90%以上を維持しています。大学院生ではさらに高く、2021 年度以来の変化は 96%・99%・93%・96%と、より高い数値において推移しています。4) 授業に「十分満足」「ほぼ満足」と回答した割合について。学部生は 2023 年度に 87%と減少しましたが、今回は 2021・2022 年度と同じ 90%を回復しました。大学院生は 2021・2022・2023 年度 (91%・93%・97%) の上昇を経て今回は 96%と、満足度はほぼ維持されています。5) 「予習・復習などの授業外学習時間」について。「1 時間以上」の回答が、学部生は 2020・2021 年度の約 62%に対し、2022 年度は約 57%、2023 年度は 51%、今年度は 40%とさらに減少しました。特に 0.5 時間未満という回答が、2023 年度と比較すると約 10%から約 30%へと増加しました。大学院生の「1 時間以上」の回答は、2020 年度は約 72%、2021 年度は約 69%、2022 年度は 74%と上下した後、2023 年度は 83%へと急上昇し、今年度も 84%を示しました。一方で、0.5 時間未満は 9%でしたが、学部生同様の増加傾向が見られ、今後の注視と分析が必要です。

授業評価アンケートの回答率は、2022 年度は約 15%で、前年度の約 20%から 2 割以上の低下を示しました。2023 年度は約 19%となり、回答率をほぼ回復したものの、今回は約 18%で微減しています。いずれにしても、5 分の 4 以上の学生は無回答という現状は変

わりません。回答者層イコール「授業に出席し満足している」層と読める現在の授業アンケートの有効性、ここに反映される／されない学生の声をいかに聴くか、そしてそれをいかに授業に反映させるかという問題は、今後も考え続けていくことが必要です。

2025年度 教育学研究科自己点検・評価委員会

田中智子・西見奈子・南部広孝